

オイルクーラーキット 取付説明書



取付けは必ず専門業者に依頼してください。

取扱説明書を先に読んでから作業を行なってください。

本書はご使用前に必ずお読みください。

本書は、お読みになった後も本製品の側に置いて活用してください。

本製品は、下記に示す車両のみ取付け可能です。

万が一お車と本製品の型式等が異なる場合には、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください。

商 品 名	車種別オイルクーラーキット
用 途	自動車エンジン専用オイルクーラー部品
コ ー ド No.	15004-AN004
製品説明書品番	E04261-N48042-00 Ver. 3-3.03
整備要領書品番	A006026、A006027
メ ー カ ー 車 種	日産 スカイラインGT-R（BCNR33）
エ ン ジ ン 型 式	RB26DETT
年 式	1995年01月～1997年1月
備 考	・ 1997年2月以降の車両（キセノンヘッドライト装着車）は、取付が出来ません。 ・ 新品のオイルフィルタとオイルを用意してください。

改訂の記録

改訂No.	日 付	記 載 変 更 内 容
3-3.01	2004/12	初版
3-3.02	2005/03	パーツリスト変更
3-3.03	2017/04	適合情報およびパーツリスト更新・書式更新

目次

はじめに／本書・製品について／安全上の注意	2
パーツリスト	3
1. ノーマルパーツの取外し	6
2. キットパーツ取付け	10
3. ノーマルパーツの取付け	14
4. 取付け後の確認	15

はじめに

この度は、HKS オイルクーラキットをお買い上げいただきまことにありがとうございます。
本製品を安全にご使用いただき、機能を十分に発揮させるために本書をお読みください。
取付け終了後は本書に記載されている内容を守り、安全に使用してください。
本書は取付けを行なう前に必ず読み、よく理解した上で作業を行なってください。

本書・製品について

- 本書は本製品を安全に取付けていただき、お客様や第三者への危険や損害を未然に防止するため、守っていただきたい注意事項を示しています。
- 本製品は自動車専用部品です。用途外の使用は行なわないでください。
- お客様又は第三者が、本製品及び付属品を加工、誤使用したことにより受けた損害について当社は一切責任を負いかねます。
- 本製品は日本国内モデル ノーマル車両への取付けを基準に開発されています。
- 本書は、予告なく改版することがありますので本製品と本書の整合をご確認ください。
- 本製品は付属品を含め、改良のため予告なく変更することがあります。

安全上の注意

本書では、下記のような記号を使用し、お客様への危険レベルを示しています。



警告

作業者又は使用者が、死亡又は重傷を負う恐れがある場合



注意

作業者又は使用者が、傷害を負う危険が想定される場合(人損)
拡大物損の発生が想定される場合
(拡大物損とは、当該製造物が原因で誘発された物的損害(例えば車両の破損及び焼損))

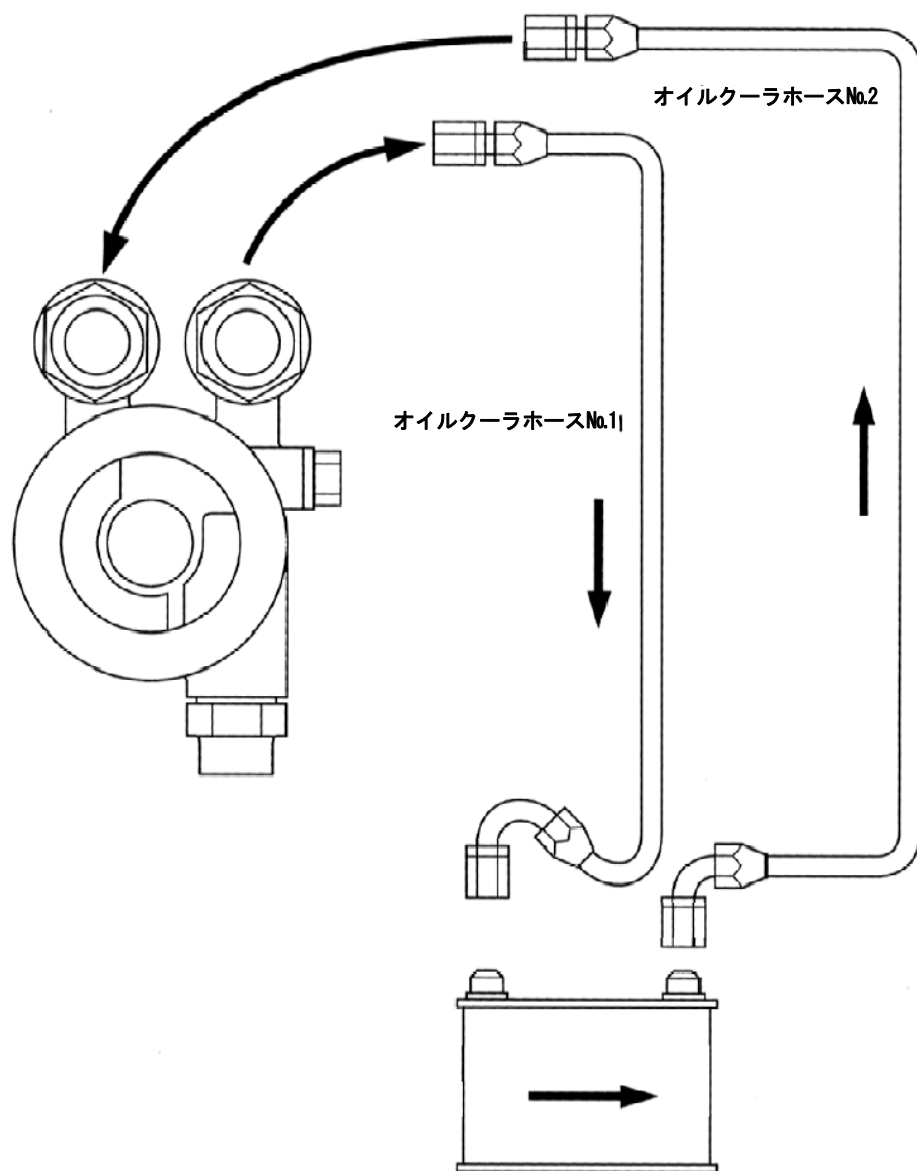
</

パーツリスト

連番	品 名	数量	形 状	備 考
26	タイラップ（中）	8		
27	取扱説明書	1		
28	取付説明書	1		

概要図

矢印はオイルの流れを示しています。



1. ノーマルパーツ取外し

作業を始める前に、エンジンオイルを準備しバッテリーのマイナス端子を取外してください。
必ず整備要領書及び取扱説明書に準じて作業を行ってください。

1-1. アンダカバーの取外し

(1) ボルト(10本)を取外し、アンダカバーを取外してください。

1-2. オイルの抜取り

(1) オイルパンからオールドレンプラグを取外し、オイルを抜いてください。(図1-2-1)

 注意
・エンジン停止直後は作業をしないでください。 オイルが熱く、火傷をする恐れがあります。 しばらく置き、油温が下がってから作業を行ってください。

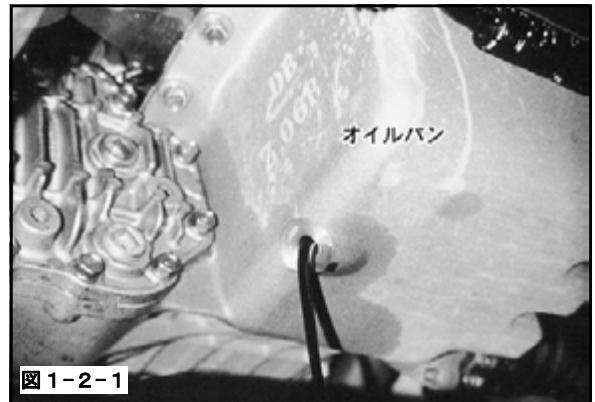


図 1-2-1

1-3. ブレーキエアダクトの取外し

(1) ボルト(左右各6本), クリップ(左右各2個)を取外し、ブレーキエアダクトを取外してください。
(図1-3-1、図1-3-2)



図 1-3-1

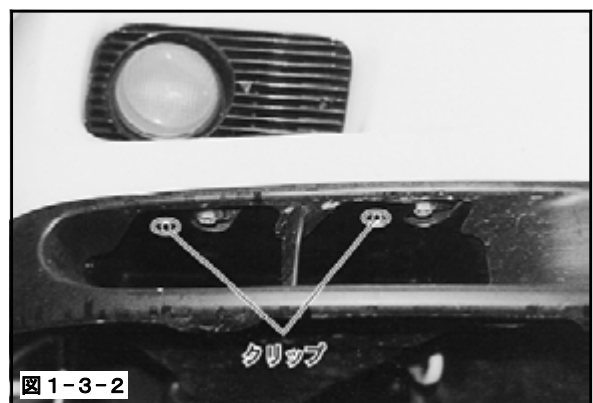


図 1-3-2

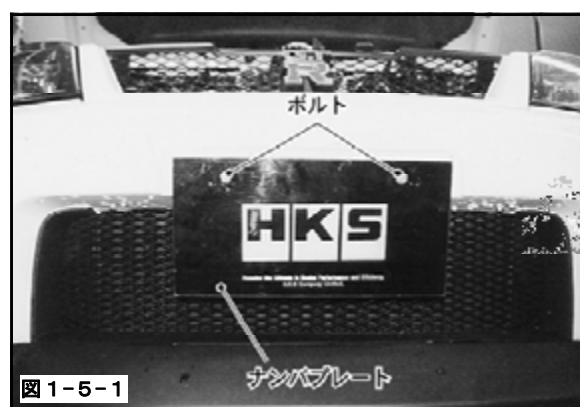
1-4. フェンダプロテクタの取外し

- (1) ボルト(左右各4本)及び、クリップ(左右各3個)を取外し、フェンダプロテクタを取外してください。(図1-4-1, 図1-4-2)



1-5. ナンバプレートの取外し

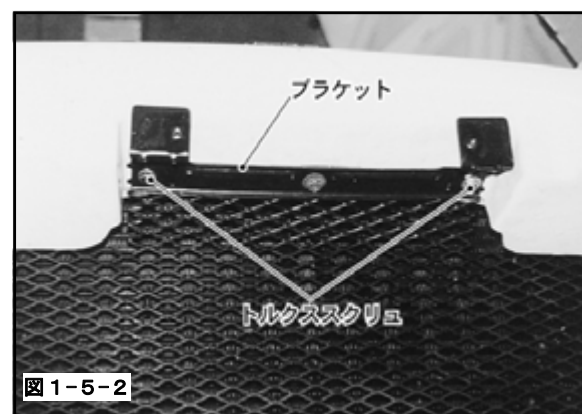
- (1) ボルト(2本)を取外し、ナンバプレートを取外してください。(図1-5-1)



- (2) トルクススクリュ(2本)を取外し、ブラケットを取外してください。(図1-5-2)

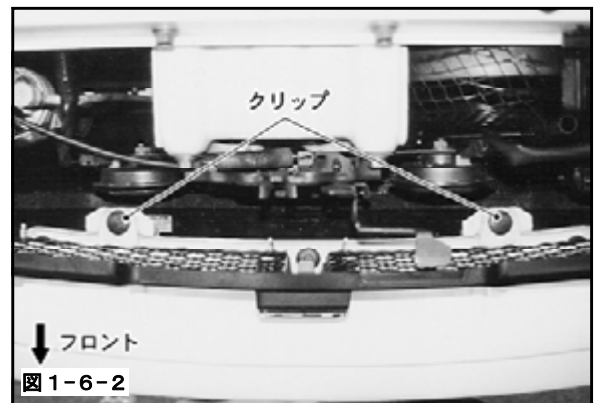
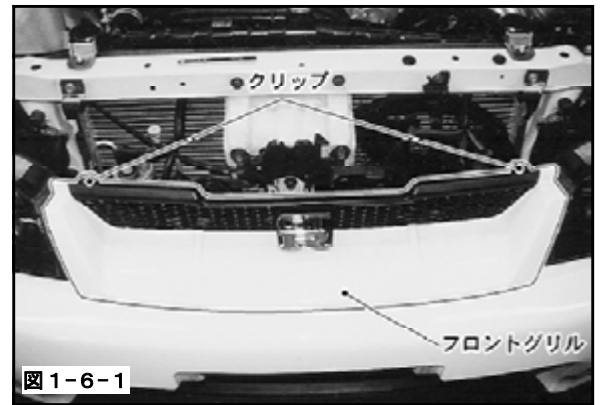
アドバイス

- ・トルクススクリュはトルクスレンチ T30(いじり止め付き)を使用してください。



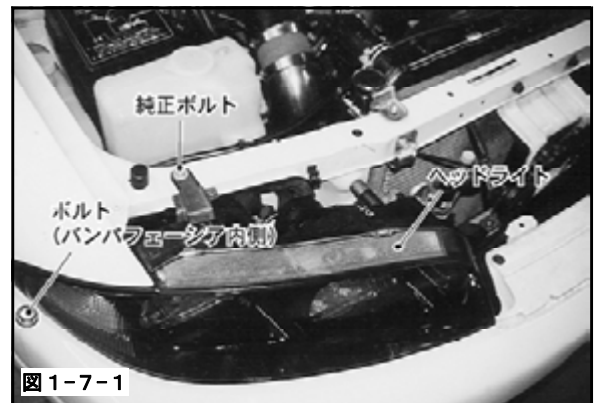
1-6. フロントグリルの取外し

- (1) クリップ(4個)を取外し、フロントグリルを車両から取外してください。(図1-6-1, 図1-6-2)

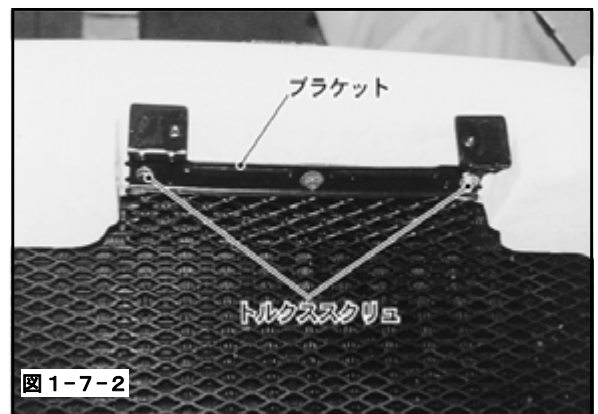


1-7. ヘッドライトの取外し

- (1) バンパフェーシア内側サイド部のボルト(左右各1本)及びヘッドライト上部のボルト(左右各1本)を取外してください。(図1-7-1)

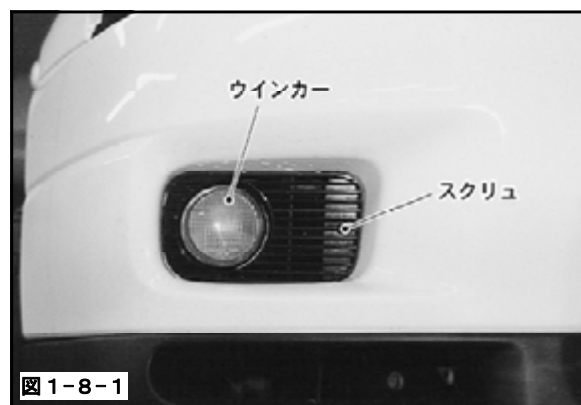


- (2) ナット(左右各2個)を取外し、ヘッドライトを車両から取外してください。(図1-7-2)
- (3) ヘッドライトにつながっているカプラを取外してください。



1-8. ウィンカーの取り外し

- (1) スクリュ (左右各1本) を取外し、ウィンカーを取外してください。(図1-8-1)
- (2) ウィンカーにつながっているカプラを取外してください。

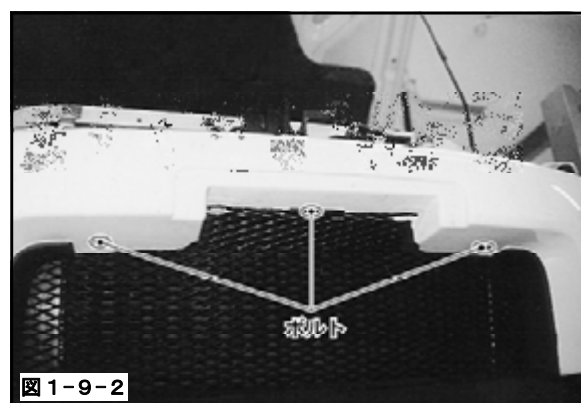


1-9. バンパフェーシアの取り外し

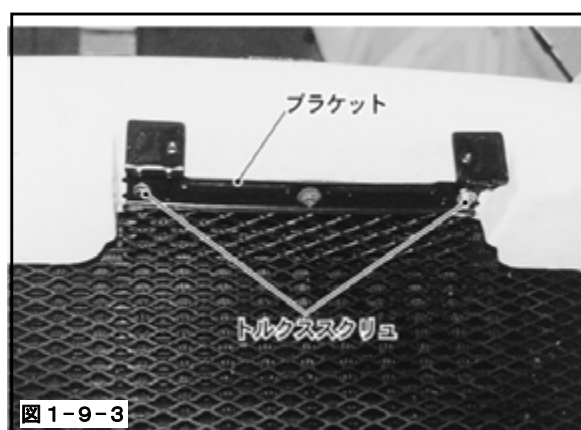
- (1) バンパフェーシア内側サイド部のタッピングスクリュ (左右各2本) を取外してください。(図1-9-1)



- (2) ボルト (3本) を取外してください。(図1-9-2)



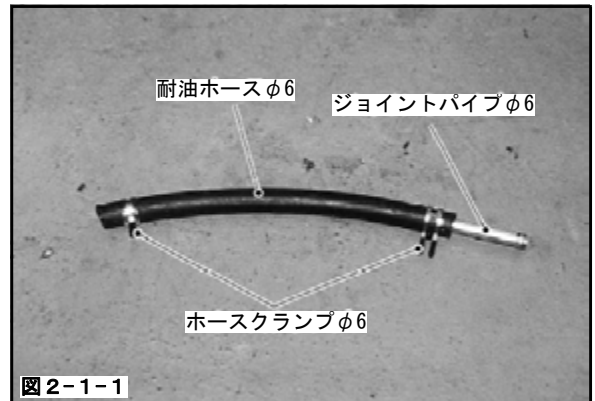
- (3) クリップ (3個) を取外し、バンパフェーシアを車両から取外してください。(図1-9-3)



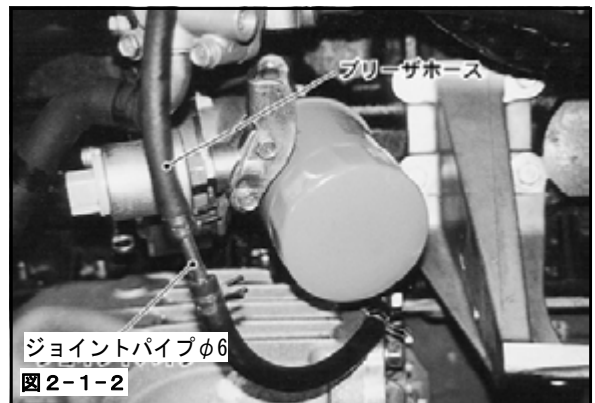
2. キットパーツ取付け

2-1. ブリーザホースの取付け

- (1) 耐油ホース $\phi 6$ を約20cmに切断し、ホースクランプ $\phi 6$ 、ジョイントパイプ $\phi 6$ を取付けてください。
(図2-1-1) (P14 $\times$ 1, P15 $\times$ 1, P16 $\times$ 2)



- (2) フロントデフのブリーザホースを抜き、2-1. (1) のホースを継ぎ足して延長してください。(図2-1-2)



2-2. アタッチメントAssyの取付け

- (1) アタッチメントAssyにOリング $\phi 60$ を取付けてください。(図2-2-1) (P2 $\times$ 1, P9 $\times$ 1)

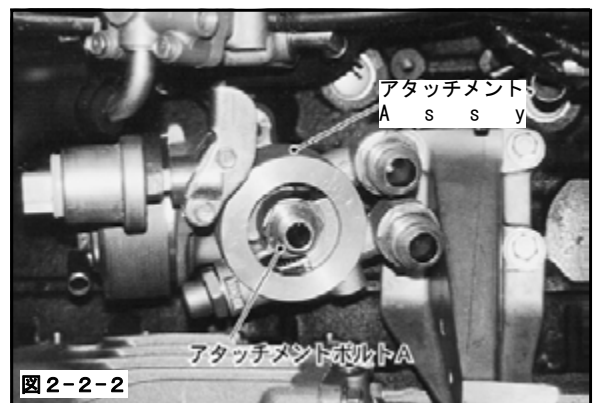


- (2) 純正のオイルフィルタを取外し、アタッチメントボルトAを使用してアタッチメントAssyを取付けてください。(図2-2-2) (P3 $\times$ 1)

締め付けトルク (N $\cdot$ m) T=29.4~34.3 (3.0~3.5kgf $\cdot$ m)

アドバイス

- ・ アタッチメントAssy取付けの際、Oリング $\phi 60$ が外れないようにしてください。
- ・ アタッチメントボルトAは、29mmのソケットを使用して取付けてください。



2-3. オイルクーラホースの取付け (1)

- (1) アタッチメントAssyにオイルクーラホースNo.1, オイルクーラホースNo. 2を取り付けてください。
(図2-3-1) (P4×1, P5×1)

アドバイス

- ・オイルクーラホースNo.1(短い方)を下側、オイルクーラホースNo. 2(長い方)を上側に取付けてください。

締め付けトルク (N・m) T=34.3~39.2 (3.5~4.0kgf・m)

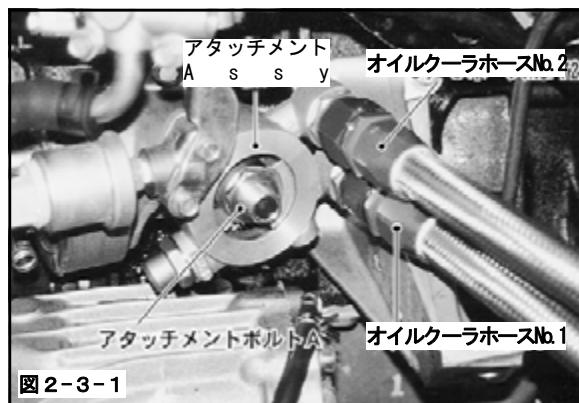


図2-3-1

- (2) アタッチメントAssyに純正のオイルフィルタを取付けてください。(図2-3-2)

アドバイス

- ・オイルクーラホースNo.1, オイルクーラホースNo.2, オイルフィルタ取付けの際、オイル漏れのないよう確実に締込んでください。
- ・オイルフィルタは、新品を用意してください。
(日産純正品番: 15208-H8903)

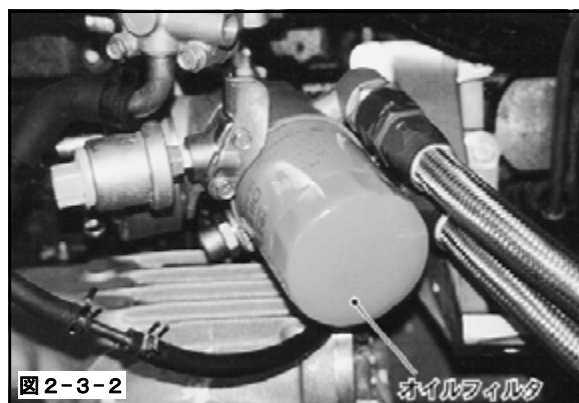


図2-3-2

2-4. オイルクーラスターの取付け

- (1) 純正ボルトを使用し、バンパステーブラケットにオイルクーラスターNo.1を取付けてください。
(スターは丸穴があいている方を取付けてください。)
(図2-4-1) (P6×1)



図2-4-1

- (2) 純正ボルトを使用し、ボディにオイルクーラスターNo.2を取付けてください。(図2-4-2) (P7×1)
※ 取付けの際、図2-4-2の矢印のボルトを外しリサーキュレーションチューブを上へ逃がして、オイルクーラスターNo.2を取付けた後、ボルトを元の位置で締めてください。

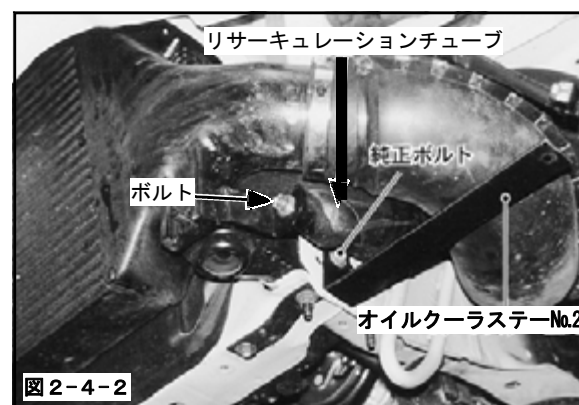


図2-4-2

- (3) ボルトM6 L=15, プレーンワッシャM6用, スプリングワッシャM6用, ナットM6を使用して、オイルクーラステーNo.3を取付けてください。(図2-4-3)
(P8×1, P17×1, P18×2, P19×1, P20×1)

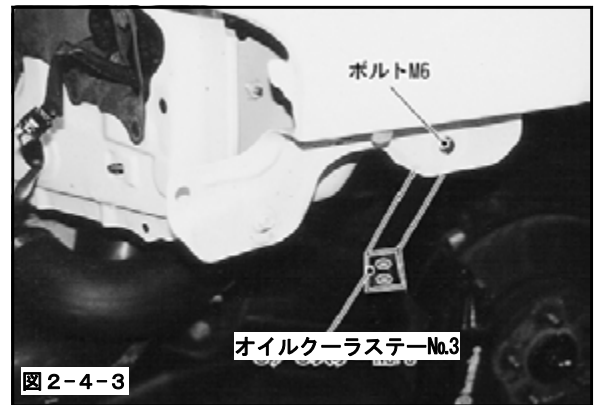


図 2-4-3

2-5. オイルクーラコア、エアダクトの取付け

- (1) ボタンボルトM4, プレーンワッシャM4用, ナットM4を使用して、オイルクーラエアガイドNo.1, オイルクーラエアガイドNo.2, オイルクーラエアガイドステーNo.1, オイルクーラエアガイドステーNo.2を組立ててください。(図 2-5-1)
(P10×1, P11×1, P12×1, P13×1, P21×5, P22×5, P23×5)

アドバイス

- ・オイルクーラエアガイド下側のボルトはボルトの頭を下にして取付けてください。
(車両取付けの際、フェンダプロテクタとの干渉を避けるため)

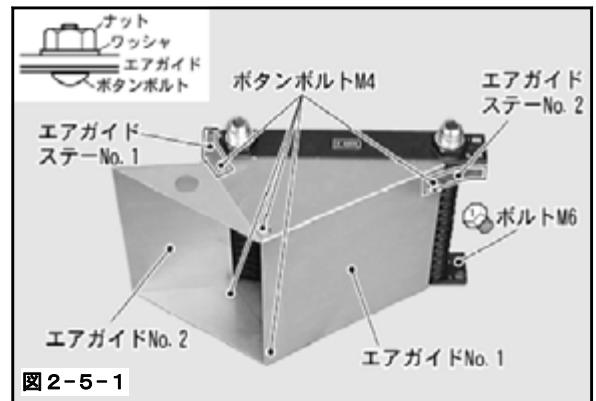


図 2-5-1

- (2) 2-5. (1) をオイルクーラコアに被せ、ボルトM6 L=15, プレーンワッシャM6用, スプリングワッシャM6用, ナットM6を使用して固定してください。(図2-5-1)
(P1×1, P17×1, P18×2, P19×1, P20×1)

- (3) ボルトM6 L=15, プレーンワッシャM6用, スプリングワッシャM6用, ナットM6を使用して、車両にオイルクーラコアを取付けてください。
(図2-5-2) (P17×4, P18×8, P19×4, P20×4)

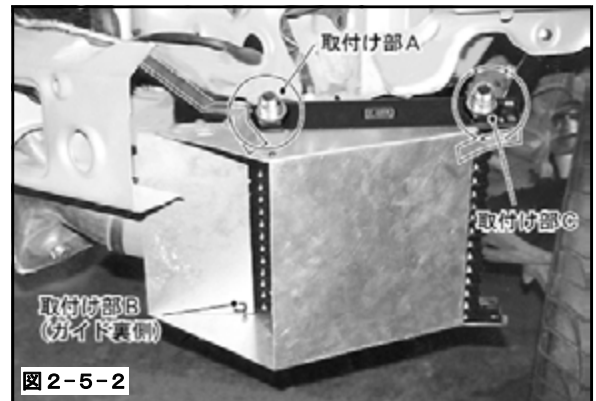
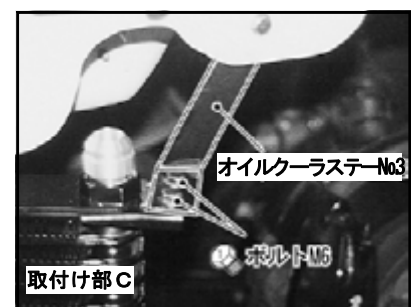
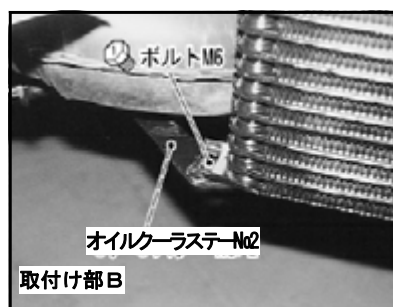
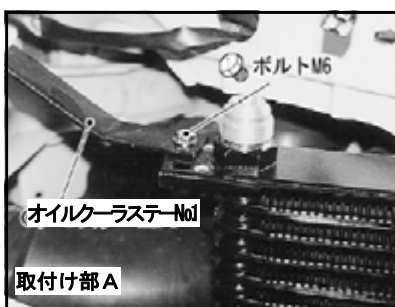


図 2-5-2

アドバイス

- ・車両の個体差によりオイルクーラエアガイドがパイピング等に干渉する場合には、スポンジシートを干渉部分に貼って対処してください。(P25×2)
- ・取付け位置は下図を参照してください。
- ・オイルクーラエアガイドはステーとコアの間にに入れて取付けてください。

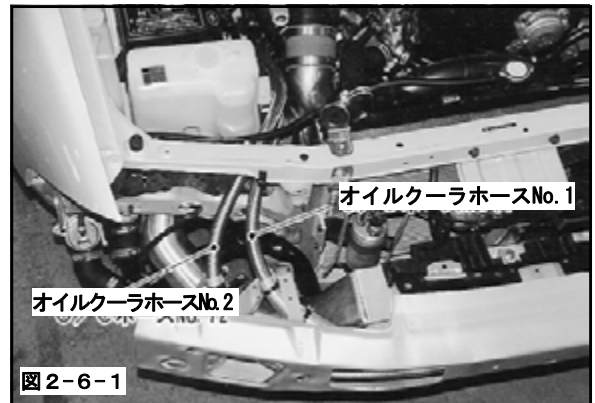


2-6. オイルクーラホースの取付け (2)

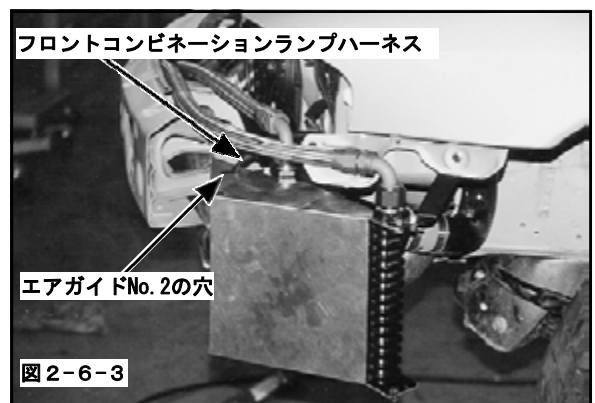
- (1) オイルクーラホースNo.1, オイルクーラホースNo.2の配管を各図に示すように通してください。
(図2-6-1, 図2-6-2, 図2-6-3)

アドバイス

- ・ オイルクーラホースとボディが干渉する部分にはスパイラルチューブを巻き付け、タイラップ(中)で固定しホースが直接接触しないように配管してください。
(P24×1, P26)

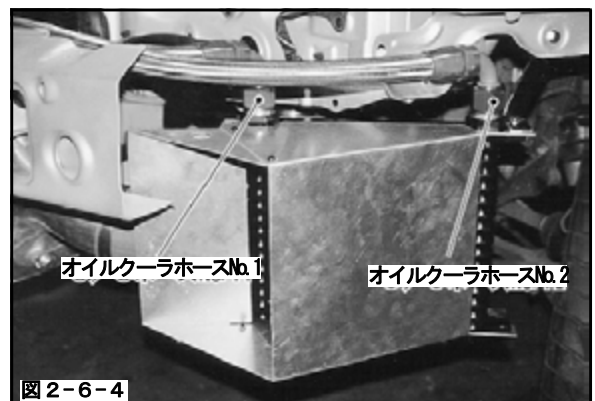


- (2) 図のように、オイルクーラエアガイドNo.2の穴にフロントコンビネーションランプハーネスを通してください。
(図2-6-3)



- (3) オイルクーラコアにオイルクーラホースNo.1, オイルクーラコアにオイルクーラホースNo.2を取付けてください。(図2-6-4)

締め付けトルク (N・m) T=34.3~39.2 (3.5~4.0kgf・m)



3. ノーマルパーツ取付け

3-1. ノーマルパーツの取付け

(1) ノーマルパーツ取付けの際は、「1. ノーマルパーツの取外し」の逆の手順で作業を行なってください。

アドバイス

・フェンダプロテクタを取付ける際、オイルクーラの取付け位置後部に格子状に穴を開けるとオイルクーラの冷却性能が向上します。(図3-1-1)

(2) オイルパンに純正のオイルドレンプラグを取付けてください。

(3) オイルレベルゲージの規定範囲内に達するまでエンジンオイルを入れてください。

アドバイス

推奨エンジンオイル：HKS SUPER TURBO RACING (5~6^{リットル}必要)

(4) バッテリーのマイナス端子を取付けてください。

※取付作業終了後、必ず取扱説明書の「取付後の確認」に従って確認作業を行なってください。



4. 取付後の確認

エンジン始動前の確認

確 認 項 目	確 認
パイプ・ホースなどの配管がまちがっていないか。	
ホースにねじれや過度の曲げがないか。	
バッテリーのマイナス端子にケーブルターミナルが確実に取付けられているか。	
エンジンオイルがレベルゲージのH（F）～Lの間にあるか。	
ボルト・ナット類の締め忘れがないか。	
取付けた部品が他の部品と干渉していないか。	
オイルクーラコアがしっかり固定されているか。	
オイルクーラコアやホースからオイルもれがないか。	

エンジン始動後の確認

始動直後は回転を上げないようにしてください。（アイドリング運転）

確 認 項 目	確 認
オイルもれがないか。	
軽く空拭かしを2、3度行ないオイルがもれていないか。	
部品による干渉音がないか。	
油圧が上昇し、オイルクーラにオイルが回っているか。	
エンジンを停止して、ネジ等がゆるんでいないか。（再度取付け部品の締付け確認）	
エンジンオイルがレベルゲージのH（F）～Lの間にあるか。	

- エンジンオイルの温度が80℃以上になるとサーモスタットが作動し、コアへ流れるオイルの量が増加します。オイルクーラコアとホース内にオイルを充分循環させた後にエンジンを停止し、オイルレベルゲージを再度確認してください。
オイルレベルが下がっている場合は規定量までオイルを補充してください。



株式会社 エッチ・ケー・エス
〒418-0192 静岡県富士宮市北山7181
<http://www.hks-power.co.jp/>